

**カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント**

**ニュースレター (第31回)**

**CDTに新メンバー加入!**

以前から教育省にお願いしていた新しい CDT メンバーの投入がようやく行われました。新しいメンバーの選定においては、教育省内部での検討と同時に、教科別カリキュラム委員会 (SWC) からの推薦なども総合的に考慮され決定されたということです。

新しい CDT メンバーは、ミャンマー語 1 名、英語 1 名、社会 1 名、理科 2 名、道徳公民 2 名、体育 1 名、ライフスキル 2 名、の合計 10 名です。彼らの所属先は、教育省教育研究計画訓練局 (4 名)、ヤンゴン大学 (3 名)、ヤンゴン教育大学 (1 名)、教員養成学校 (1 名)、基礎教育高等学校 (1 名) となっており、彼ら新メンバーを合せて、現時点での各教科 CDT は以下のようになりました。

**CDT の教科別人数構成 (2017 年 9 月 29 日時点)**

教科名	人数	教科名	人数
ミャンマー語 (Myanmar)	7	道徳公民 (Morality & Civics)	5
英語 (English)	6	体育 (Physical Education)	5
算数 (Mathematics)	5	ライフスキル (Life Skills)	5
理科 (Science)	5	音楽 (Performing Arts)	4
社会 (Social Studies)	7	図画工作 (Visual Arts)	4
<b>合計</b>			<b>53</b>

**新メンバーにオリエンテーション研修!**

9 月 11 日 (月)<sup>1</sup>、CREATE では CDT の新メンバーに対して、オリエンテーション研修を実施しました。この研修の目的は、新しいメンバーが、今後、初等の教科書及び教員用指導書の開発を効果的に行えるように、基本的な事項についての共通理解を構築しておくことでした。



研修内容は、ミャンマーの新カリキュラムが目指す教育といった大きなビジョンから、カリキュラム (教科書・教員用指導書) を開発していく上での基本的な理論、さらには CREATE での開発手順、といった具体的な方法論までを一日かけて扱いました。

実は、この内容の大半は、CREATE が開始される以前の 2013 年 9 月から 2014 年 4 月の半年の期間に、当時すでに CDT に任命されていた方々に対して、筆者が行った内容とほぼ同じで、従来からのメンバーはほぼ全員周知している内容です。

しかしながら、今回の研修に参加した新しい CDT メンバーにとっては、その多くが初めて見聞きすることばかりだったようで、研修後には、「全く知らなかったの、とても勉強になった」、「初めて聞いて、そういうことだったのかと改めて分かった」という意見が出されました。皆さん、これから CREATE の一員として実際の作業に従事していくということもあって、非常に熱心に研修に参加され、一つひとつのテーマにおいても非常に熱心に議論されていました。

<sup>1</sup> 当日、所用のため参加できなかった CDT メンバーについては、9 月 25 日 (月) に同様の研修を行いました。

### オリエンテーション研修の内容

	時間	研修内容
1	10:00-11:00	ミャンマーが目指す新しい教育と教育改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>現在進行中の教育改革が目指すものとは？</li> <li>新しい小学校の教科書開発は、どのような教育観に基づいて行われているのか？</li> <li>新しい小学1年生用の教科書の特徴とは？</li> </ul>
2	11:00-12:00	カリキュラム（教科書・教員用指導書）開発のための基礎理論 <ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム・デザインにはどのようなものがあるか？</li> <li>カリキュラム・デザインを行う際の構成要素とは？</li> </ul>
3	13:00-14:30	ミャンマーの国家カリキュラム・フレームワーク（NCF） <ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム・モデル（五大能力と21世紀型スキル）はどのように作られたのか？</li> <li>NCFはミャンマー教育史上、画期的な特徴をもっている！？</li> <li>NCFの構造と読み込む上での留意点</li> </ul>
4	14:30-15:00	CREATEにおけるカリキュラム（教科書・教員用指導書）開発手順 <ul style="list-style-type: none"> <li>01 フォーム（カリキュラム・アウトライン）</li> <li>04 フォーム（教科別カリキュラム詳細）</li> <li>教科書開発ガイドライン</li> </ul>
5	15:00-16:00	振り返り（質疑応答を含む）

### 小学2年生用の教科書・教員用指導書の進捗

小学2年生用の教科書開発は今年2017年1月から進めてきましたが、9月中旬には、ほぼすべての教科において教科書（初校）が出来上がり、国家カリキュラム委員会（NCC）及び教育省のミャンマー民族言語局（DMNL）に提出し、内容及び文字の正しい使い方、誤字脱字などの確認を終えました。現在、NCCやDMNLから出された論評をもとに、教科別カリキュラム委員会（SWC）の協力を得ながら改訂作業、再校グラへと移っています。今後、三校を経て10月初旬には完成という予定です。

他方、教員用指導書の方は、教科によってかなり作業進捗に差がありますが、上記の教科書と同様に、初校あるいは再校の段階でNCCによる内容確認、DMNLによる誤字脱字、文法的に適正な表現の確認などを経て、12月初旬までの完成を目指しています。

作業日程がかなり詰まっていることは事実ですが、現状から判断すると、予定通りに進められそうです。これも専門家の皆さんの指導とCDTの日頃の努力があったからこそだと思っています。

### 在ミャンマー日本大使、CREATEを視察

9月29日（金）在ミャンマー日本大使館から樋口大使及び箭本氏（経済協力担当）がCREATEの視察に来られました。また、JICAミャンマー事務所からも唐澤所長、岩井次長、岩沢企画調査員の3名が今回の大使視察に同行されました。

時間は午前10時から約一時間と限られたものでしたが、前半30分で本プロジェクトの概要説明を行い、後半30分はカリキュラム開発チーム（CDT）、教師教育チーム（TE）、オペレーターチームの作業現場を実際に見学して頂きました。

樋口大使は、新しい教科書にたいへん興味をもってくださいったようで、ミャンマーにおいて新カリキュラムが導入されるまでの経緯や具体的な教科書開発の手順、さらには新しい教科書の特徴などをプロジェクトのスタッフやCDTメンバーなどに積極的に尋ねておられました。



### ミャンマーの教育課程のお話

ミャンマーの教育課程は、歴史的に見て政治に大きく左右されてきました。独立当初（1948年）、これまでの英国植民地主義及び日本ファシズムからようやく解放された同国は、国全体に活気があり、「これから自分たちの国を造っていくぞ！」という強い意気込みで、当時としてはかなり先進的な教育課程を策定しました。すなわち、これまでのエリート教育ではなく、すべての国民を対象にした大衆教育への転換です。ここには、「国語」「算数」「理科」「社会」「宗教」「体育」「芸術」「手工芸」「家庭」「農業」というように学科と実技がバランスよく配置され、すべての国民がよりよい生活を営むために必要な教科目が設定されたのです。

しかし、ネーウィンが政権を執り軍事政権に移行すると、大衆教育は軽視され、「国語」「算数」「社会理科」「保健体育」「労働作業」と、一気に教科目数が激減し、「宗教」「芸術」が教育課程から消滅しました（1966年）。さらに、社会主義政権が誕生すると、「国語」「英語」「算数」「地理」「歴史」「労働作業」と教科目はさらに絞られ、「理科」と「保健体育」が姿を消しました（1985年）。これは、国民の教育ということについてほとんど考慮されなかった証拠でもあります。

そして、「理科」や「芸術」、「道徳（宗教）」「保健体育」が復活するのは1998年になってからです。しかし、教育が軽視され続けた約30年間の影響は決して少なくなく、このことは現在でも同国の教育実践を難しくしています。

以上

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）

編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）